

## 本時ちょこっと金沢探究スタイル

## 本時まるごと金沢探究スタイル

## 単元まるごと金沢探究スタイル

## 金沢市立高岡中学校

学年	中学校1年（社会科）
本時のねらい	『蒙古襲来絵詞』から、元軍の戦い方を読み取り、それまでの武士の戦との違いや元寇の影響が、鎌倉幕府の衰えに繋がっていくこと点を考察する。
探究的に学ぶ子どもの姿	『蒙古襲来絵詞』の資料から、元軍独自の戦い方を読み取り、その上で、この戦いが今までの戦と根本的に違う点を御恩と奉公の面から考え、その後の幕府にどのような影響を与えたのかを、意見交換しながら、話し合いを進めていた。
探究的な学びを進めるための教師の支援	・生徒に『学び合い』による学習の形態を身につけさせる。 ・ワークシートを用意する。・Googleスライドで画像用意。

## 資料【蒙古襲来絵詞】



## ワークシート

## 6-1 モンゴル帝国と「蒙古襲来」 教科書12-21ページ

学習目標：元寇は、書籍にどのような影響を与えたのだろうか。

## &lt;モンゴル帝國の襲来と発生&gt;

(1) 12世紀頃、モンゴルを統一した(①人物名)は、中西太郎など平原地帯に進出して(②地名)を攻いた。



(2) ①の人物の孫である(②人物名)が忽母のときに、孫を大勝に巻き、日本を(③)と捉え、1276年には、中西太郎を攻撃した。

(3) モンゴル帝國の規模が広大になり、ユーラシア大陸での攻防がさかんになり、イタリアの商人である(④人物名)は、「世界の資金(東方貿易)」の中で、日本を資金調達センターと認めた。

## &lt;二度の蒙古襲来&gt;

(1) フビライは1272年に貢税を新規税に、日本に貢税と貢馬を徴収してきたが、3代執権(⑤人物名)はその要求を拒絶した。

(2) 1274年10月、元軍が九州北部に押し寄せ、畠山軍に上陸し、畠山軍と戦った。元軍になると精鋭や敗残が残くなることもあり、すぐに引き上げた、これを、(⑥)といいう。

(3) 以下の資料「蒙古襲来絵詞」を見て、元軍の戦い方でどのような特徴があるか、2つ答えるさい。



元軍の戦い方

(⑦) (⑧)

(⑨) (⑩)

(4) 1281年6月、元軍の大軍が丹波・淡路・近江・攝津・和泉に上陸した。元軍は、畠山の精鋭や、高倉に率いられた(⑪)にははまれ、上陸できず、激しい暴風雨で艦船が壊滅的な打撃を受けて引き上げた、この戦いを(⑫)といいう。

(5) この二度にわたる戦いを(⑬)といいう。

## &lt;対応人たちの不満&gt;

(1) 元寇が対応せたことで、畠山は、(⑭)を御家人に十分に与えることができなかつた。また、その後も元寇の要求に従えて、(⑮)は抜けられたため、その精鋭が御家人に巻くのしかがつた。

(2) 当時の武士たちは、(⑯)を嫌うあまり、切腹が決くなっていた。こうしたなか、皆虫を食わ、土地を不払す御家人が出てきた。畠山は、(⑰)を出して御家人を決あうとした。

【まとめ】元の畠山の(⑲)の命令で、1274年と1281年の二度にわたって、日本は、元寇の要求を受けた。これを、(⑳)といいう。畠山は、3代執権(㉑)のことで、御家人もよく戦い、元寇を退けたが、しかし、その結果、御家人は大きな負担を負うことになり、畠山の方は、を負う決していった。

## 石墨の写真

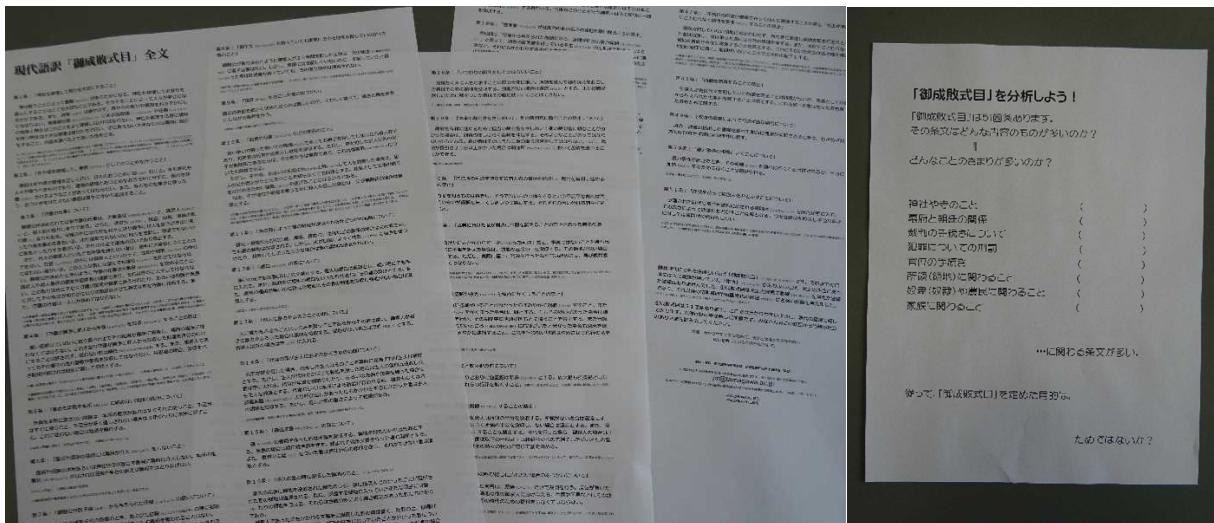


(様式 5)

本時ちよこつと金沢探究スタイル  
本時まるごと金沢探究スタイル  
単元まるごと金沢探究スタイル

金沢市立高岡中学校

学年	中学校 1 年 ( 社会科 )
本時のねらい	『御成敗式目』を読み取り、武士の台頭で起こりうる課題とその対応について再考察する。
探究的に学ぶ子どもの姿	『御成敗式目』の現代語訳から、どのような内容項目の条文が多いのかを数え、生徒同士でどのような内容が多いのかを話し合った。式目の制定目的が何であるかを考え、意見交換しながら集約をしていった。生徒は学習班で級友と協力しながら話し合いを進めていた。
探究的な学びを進めるための教師の支援	・生徒に『学び合い』による学習習慣を浸透させる。 ・内容の分類を行うためのワークシートを用意する。



(様式 5)

本時ちょこっと金沢探究スタイル  
本時まるごと金沢探究スタイル  
単元まるごと金沢探究スタイル

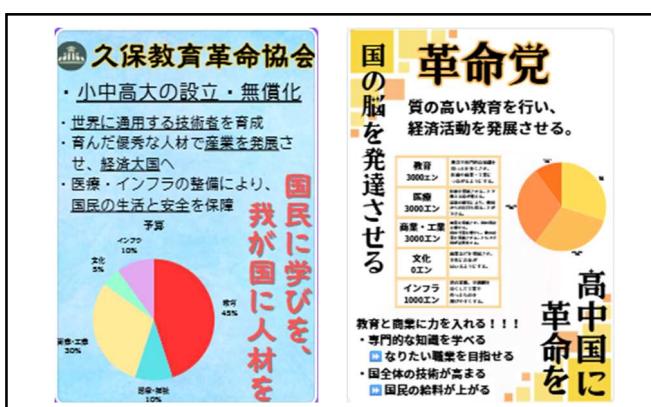
金沢市立高岡中学校

学年	中学校 3 年 (社会科)
本時のねらい	模擬的な政党づくり、公約づくり、投票を通して、国民の政治参加が民主政治を支えていることに気づかせ、政治上の課題を多面的・多角的に考察させ、確かな根拠に基づいて公正に判断することや、望ましい政治のあり方について構想し、表現する。
探究的に学ぶ子どもの姿	架空の国を設定し、国を再建すべく、自分の意見をもとに政党づくりさらには公約づくりまでを話し合い、公約ポスターを作成する。最終的には模擬投票も行った。
探究的な学びを進めるための教師の支援	架空の国の条件や公約づくりのための資料の提示。 できあがった公約ポスターをクラスのポートフォリオに入れ、生徒がいつでも見られるように掲示。



生徒に提示した資料の一部。これをもとに何に重点をおいて公約を作れるのかを一人ひとり考えた。

自分の考えと近い人たちとグループを作り公約づくりをしている様子。



生徒が作成した公約ポスター。  
何に重点をおくのか、予算はどのように配分するのかなどを示している。

## 本時ちょこっと金沢探究スタイル

本時まるごと金沢探究スタイル

単元まるごと金沢探究スタイル

## 金沢市立高岡中学校

学年	中学校3年（社会科）
本時のねらい	裁判員制度を学び、実際の実例を通して、主体的に法をもとに、判決を考えることを狙いとしている。
探究的に学ぶ子どもの姿	実例に対して、検察官の証言や弁護士の証言をもとに、自分自身の考えを班【6名】のメンバーに伝え合っていた。
探究的な学びを進めるための教師の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>法や刑罰の例や資料を出しながら、具体的な議論になるように支援を行った。</li> <li>シミュレーションの劇を用いることで、子どもたちの関心をひき、主体的に参加したくなるように支援を行った。</li> </ul>



裁判員は8,633人

補充裁判員は2,906人

裁判員等に選ばれる確率は、全国で1年あたり、全有権者の8,700人に1人程度（約0.01%）

**一生でなる確率は65人に一人**

生徒に、裁判員になる確率を説明し、将来になるかもしれないと、自分ごとになって考えられるように支援をおこなった。